

2023 年度工学院大学学園祭実行委員会新宿祭実行部 総括

工学院大学学園祭実行委員会新宿祭実行部

部長 宮川 純一



1. 構成

学園祭実行委員会新宿祭実行部は部長、副部長、会計の三役に加え、渉内局、渉外局、技術局、広報局、創作局、企画局の計 6 局、3 年生 10 人で構成された。

2. 方針

本実行部は八王子祭実行部で培った経験を活かし、新宿祭を企画・運営する。昨年度は八王子祭・新宿祭共に対面での完全開催ができたものの、新宿祭では多くの参加団体及び来場者を集める事が出来なかった。そのため今年度は、より多くの参加団体への発表の場を提供し、新しいコンテンツに挑戦し来場者を増加させる。また、工学院大学及び新宿祭の広報を更に活発にすることと、認知度の拡大を行うことを方針とする。

3. 目的

本実行部は11月本学新宿キャンパスで開催する学園祭である新宿祭を企画・運営する組織である。新宿祭を円滑に運営し、参加団体や来場者をともに楽しませることで、広く学生への参加意欲を喚起し、学生が学術・文化活動の成果を発表する場を企画・運営することを目的とする。また、本実行部主催の企画を運営することで参加団体の更なる参加向上を図る。加えて、本学の広報並びに発展に寄与することを目的とする。

4. 活動内容

a) 新宿祭全体会議

学園祭を参加団体、来場者をはじめとした全ての方々に満足していただく学園祭を創るため、実行部内で意見交換を行った。意見交換の場としたことにより意識統一・向上を図った。また活動状況を情報共有したことにより本実行部全体での活動を本実行部全員が把握することができた。

b) 学園祭全体会議

別々のキャンパスで活動を行っている八王子祭実行部と新宿祭実行部の間での情報を共有すると共に、ディスカッションを行ったことで本委員会全体での意識統一・向上を図った。また学園祭実行委員会として、両実行部での問題を全体で解決することを目的とした。

c) 第 61 回八王子祭

八王子祭に参加する学生団体の学術・文化活動の場を提供し、本学の広報及び発展に寄与することを目的とし、10 月に八王子キャンパスにて八王子祭を企画・運営した。また、新宿祭実行部が運営に加わることで昨年度の経験を活かし、八王子祭実行部のみでは目の行き届かない範囲の管理が可能となり、八王子祭実行部の余裕を持った運営に繋げることができた。また、八王子祭実行部とともに作り上げることで円滑で安全な八王子祭の運営をすることができた。

d) 第 73 回新宿祭

キャンパス全体には、毎年掲げているテーマである「GAME」の世界観に来場者・参加団体ともに普段とは違ったキャンパスの姿へ、学園祭特有の雰囲気引き込むため、装飾を施した。加えて本学新宿キャンパスは閉鎖的空間であることを最大限活用し装飾を行った。

アトリウムに特設ステージを設置することで、新宿祭を大いに盛り上げるための象徴、いわば学園祭の顔といえる存在とした。強いては学生の学術・文化活動の発表の場のさらなる発展、キャンパス周辺地域との交流、幅広い年齢層の方々の来場など、様々な要素で盛り上げ、新宿祭の認知度とブランド力を向上させた。アトリウムではアーティストライブと文化会主催による声優トークショーも実施したことで、最新技術を駆使して来場者に感動を与えた。また学生層に人気のあるアーティストや芸能人を招致しパフォーマンスを行っていただいたことで、多くの学内生や来場者に足を運んでいただき、新宿祭を楽しんでいただいた。一階東口付近の階段では、ビル型キャンパスという特徴を活かした企画である鉄人 29 階を実施した。アトリウムステージにて、昨年度に引き続き家庭用ゲーム機を使い、来場者の人に盛り上がり楽しんでいただくゲーム企画ではゲストの方を招致し、実況をしていただいたことで、ゲームを楽しむことだけでなく、観覧席の方々への盛り上がりにもつながった。また、学内への還元を向上させる為、学内生限定の予選大会を実施した。来場者には新宿キャンパスの特徴とその魅力を体感してもらうと共に、工学院大学に興味・関心を引いたことで、これらの企画を通し、企画の参加に繋げ、新宿祭を活性化させた。

エステック広場では模擬店を開催すると共に、模擬店ランキングを実施した。これは模擬店を出店する参加団体が切磋琢磨したことで、新宿祭をより活気のあるものとした。ほかにも参加団体の発表を見ながらキャンパス内を回る新宿祭堪能スタンプラリーを実施したことにより、来場者には様々なコンテンツを回ってもらうきっかけを作った。これにより多くの来場者が様々な学生の発表の場に足を運んでいただき参加団体と来場者の双方に満足していただいた。さらに模擬店では相互地域交流の一環として、西新宿を拠点とした十二社商店親睦会の方にも出店していただいたことで新宿祭の盛り上がりにつながった。また今年度は本実行部も、熊野神社例大祭への協力をし、関係を更に強める事が出来た。

また今年度から中高生を対象とした、公開講義を実施した。しかし、広報の面で集客を思う様に行うことが出来なかった為、来年度以降の課題となる。

全体の広報活動は更なる拡充を図り、新宿をより広く多くの方々に周知させていただき、来場につなげた。新企画を立案し、参加者の方々を広報活動の参加者とし、一般の方々にさらに新宿祭の周知をさせ、新宿祭をさらに学内生から、一般の方々から盛り上げることにつなげた。